

主日礼拝

2023年1月22日（日）

題 「 荒れ野で叫ぶ者の声」

テキスト：ルカによる福音書3章1～14節

皆さん、おはようございます。

今日の宣教のタイトルは「 荒れ野で叫ぶ者の声」とつけました。

これは、今から約2000年まえ、イスラエル・ユダヤ地方のヨルダン川で洗礼を授けていた洗礼者ヨハネのことです。

当時の人たちは、救い主・メシアの到来を待望していました。

ヨハネは自分の後から、救い主が来ることを予言しました。人々はこのヨハネのことを救い主が来る前にやってくる旧約聖書のエリヤの再来と理解したようです。

「洗礼者ヨハネ、教えを宣べる」 1:皇帝ティベリウスの治世の第十五年、ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの領主、その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、

2:アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った。

まずルカによる福音書を記したルカは、預言者ヨハネは歴史のただ中に登場したことを告げています。これは大切なことです。神話や作り話ではないということです。

皇帝ティベリウスの治世の第十五年、約2000年前ユダヤ地方を含めて地中海近辺全域を支配していたのは「すべての道はローマに通じる」と言わしめたローマ帝国でした。「皇帝ティベリウスの治世の第十五年」皇帝ティベリウスとは、古代ローマの研究者によればこのローマ帝国の支配者・皇帝で、時は紀元28年頃だと言われます。主エスが活動を開始された時期のようです。「ポンティオ・ピラトがユダヤの総督、」とは、ポンティオ・ピラトとは、イエスさまを十字架につけた総督として知られています。

使徒信条にも「ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け十字架につけられ」とその名が出ています。皇帝の家来でユダヤの総督に任じられていた人物です。また「ヘロデがガリラヤの領主、」とあります。このヘロデは、イエスさまが誕生した時のユダヤの王のことです。「その兄弟フィリポがイトラヤとトラコン地方の領主、リサニアがアビレネの領主、」この人々はヘロデ大王の子どもたちです。「アンナスとカイアファとが大祭司であったとき」、大祭司は、当時のユ

ダヤ教の最高の地位になる人物で、ヨハネが存在していた時は、カイアフアが大祭司だったようですが、名前が出ているアンナスはカイアフアの舅（しゅうと）で影響力を持っていたようです。

洗礼者ヨハネは人々に媚びたり、喜ばせるような言葉ではなく、自分たちの生活を改めることを語った人でした。

洗礼者ヨハネは、救い主・キリストであるイエスが来られることを民衆に告知らせるという大きな使命のもとに生きた人です。そのしるしとして、人々にヨルダン川で悔い改めを意味する洗礼を授けていたのです。彼のことは、うそ偽りのないことばで誰をも恐れず、大胆に語り、力強かったのです。そして時の王の行動でさえ批判したので王に憎まれ捕えられ、死刑にされました。

洗礼者ヨハネは人々にもうすぐ救い主が来るので、みな悔い改めるようにとの叫びを荒野で上げ続けたのです。

ある人は、洗礼者ヨハネのことを「イエス・キリストを指し示す 1 本の指」に例えています。西洋の絵画には、ヨハネがイエスを指ししめしているいろんな絵画があります。

さて、ルカによる福音者の語る、洗礼者ヨハネの姿を見ましょう。

3:そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。

ヨルダン川は、なんだか広い川のように思っていましたが、実際は、千草川のような川幅の所も多くあるのです。このヨルダン川で、ヨハネは自分の所に来た人々に悔い改めの洗礼を宣べ伝えたのです。当時の洗礼は、浸礼で、全身を川の中につける方法でした。洲本教会でも、昔は大浜海岸で洗礼式が行われたようです。記念史に記されています。

ヨハネは厳しい時代を神のことばを語る預言者として神殿ではなく砂漠に住み、そこから語る預言者として生きました。これは神殿中心ではない新しい時代の到来を意味していると思えます。

時代の厳しさ、また人々の危機感も今よりずっと大きく強かったのかもしれませんが。世界の状況、日本の状況を見ても、これから時代はどうなっていくのか、誰も分からないのが正直なところではないかと思います。預言者ヨハネの言葉が叫びが聞こえて来そうです。

聖書のことばに聞きましょう！

洗礼者ヨハネは語ります。

4 節、これは、預言者イザヤの書に書いてあることばです。預言者イザヤは

紀元前 8 世紀頃にユダヤで活動していました。「荒れ野で叫ぶ者の声がする。
『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。

5:谷はすべて埋められ、／山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに、／でこぼこの道は平らになり、

6:人は皆、神の救いを仰ぎ見る。』

このことばは、バビロンに捕囚の身となっていたイスラエルの民が解放され故郷に戻ることを予言したことばであると言われます。

神の業が現れる時、神の平和と救いが実現する。その実現のために人々は、祈り行動することが求められています。そのように公平と平和の実現のために人々が用いられて行くという誠に美しい姿が生まれるのです。

ヨハネは日常生活の中でも具体的な行動を勧めています。それは決して特別なことではなく、ある意味あたりまえのことであるように思えます。

ヨハネは自分の所に来た人々に具体的に答えています。

群衆と徴税人と兵士に向けて語っています。

○群衆に向かって。

7:そこでヨハネは、洗礼を授けてもらおうとして出て来た群衆に言った。「蝮の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると、だれが教えたのか。」蝮の子らよ。と呼びかけています。厳しい口調です。神の怒りについて語ります。そこから、

8:悔い改めにふさわしい実を結べ。『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな。言っておくが、神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。

『我々の父はアブラハムだ』などという考えを起こすな」と。これはイスラエルの自分たちは神に選ばれた他国民よりすぐれた民であるという選民意識への痛烈な批判です。自国を中心にして驕り、他国を蔑むことを主なる神は認めないのです。「神はこんな石ころからでも、アブラハムの子たちを造り出すことがおできになる。」と。

9:斧は既に木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒されて火に投げ込まれる。」 驕らずに、まず「悔い改めにふさわしい実を結べ。」と自分と同じ民族に呼びかけています。

10:そこで群衆は、「では、わたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。

11:ヨハネは、「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答えたのです。

これは分け合うことの勧めです。着るもの、食べるものを分け合うのです。決して「自分の持っている全部を提供せよ」ということではなく、大切ないなくなったものではない下着・持ち物 1 枚を提供するということです。

賀川豊彦のことばを思います。「一枚の最後に残ったこの着物 神の為には猶（なお）脱がんとぞ思う」これは誰もがすることではないと思います。このことを人に強いることもできないと思います。ただ賀川豊彦は、そのこと胸にして生きたのだと思います。自分が必要なものは、それを求めている人もいるということです。多く与えられた人は多く提供できるのです。それで生きることの出来る人がいるということです。人を生かす行いについて考えさせられます。それが豊かな実となって行くことを思わされます。

今日であれば、政治の課題であり、その国に生きる人々の考えかた、気持ち、生き方の問題だと思います。その意識がなければ国はいつしかしぼんで行くしかないでしょう。

次は徴税人です。税金を獲る人たちです。

12:徴税人も洗礼を受けるために来て、「先生、わたしたちはどうすればよいのですか」と言った。

13:ヨハネは、「規定以上のものは取り立てるな」と言った。

これは人々への配慮であり、心配りや自己抑制のように思えます。

そして、ヨハネの教えの 3 番目は、**兵士に向かつてです**。

14:兵士も、「このわたしたちはどうすればよいのですか」と尋ねた。

ヨハネは、「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言った。

暴力行為、偽り行為、他者のものを奪う行為です。

兵士、武力は人間にとって現実的に最も強い力となります。節度と秩序の大切さを思います。軍事力が無秩序になっていくとその国はどこであっても最終的に滅びへの道を歩むことになる。このことは過去の人間の歴史からも学ぶことができます。ヨハネの教えは現代にも通じる警告のように思います。

洗礼者ヨハネが示したイエス・キリストの一番大切な教えは、無理難題ではなく、「神を愛し、人を愛することです」愛するとは、大切にすることだと言われます。イエスはご自身の十字架の死をもって示してくださったのです。これはいつの時代も人類すべてに共通する普遍の教えです。西郷隆盛は、「敬天愛人」という言葉を大切にしていたようです。それゆえ今でも日本の庶民に慕われているのでしょう。また 1887 年にはアメリカのメソジスト教会の宣教師であるフレデリック・チャールズ・クライン博士は、名古屋共和学校の創立者ですが、この「敬天愛人」を教育の基本とされていたようです。日本各地に、その精神

の学校や幼稚園が生まれて行ったのです。

「神を愛し、人を愛すること」。この道は、イエスにつながる永遠のいのちへの道でもあります。いや、この言葉を心に宿す時、すでにすでにその救いに預かっているのです。そして、人類は今こそ「神を愛し、人を愛すること」が求められていることを思わされるのです。主イエスにつながり、互いに神を大切にし、人を大切にする道を歩みたいと願います。

皆様の上に、主の平安を祈ります。 共に黙想しましょう。